

午後 1 時00分

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 欠席委員連絡（山口 勝彦委員）

午後 1 時00分開議

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 調査事件

(1) 単身高齢者への居住支援の取り組みについて

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、3月12日開催の委員会において、本市の取組状況などについて、理事者から説明を受けた後、課題や調査のポイントについて整理すること、地域包括支援センターに行き、現場の声を聞くことを確認している。
- ・ 理事者から説明を受けた後、課題・調査のポイントを整理したいと考えている。その後、徒歩にて地域包括支援センターあさひへ移動し、現地調査を行い、調査終了後は現地にて次回の予定等を協議し、終了する予定だが、そのような進め方でよろしいか。（異議なし）
- ・ 理事者の入室を求める。

（保健福祉部 入室）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 資料については、お手元に配付している。
- ・ それでは、説明をお願いします。

○保健福祉部長（氣田 聖大）

- ・ 今年の春の人事異動で保健福祉部長に就任した氣田です。改めて、よろしくお願いします。同じく保健福祉部次長に就任した田中です。

○保健福祉部次長（田中 麻衣子）

- ・ 田中です。よろしくお願いします。

○保健福祉部長（氣田 聖大）

- ・ 議題となっている、単身高齢者への居住支援の取り組みについてに関わり、本日は配付の資料に基づき、函館市の高齢化率や高齢者世帯の状況のほか、居住支援に係る国の動向、現在の保健福祉部をはじめとした市の取組などを説明させていただくので、よろしくお願いします。
- ・ 資料の内容については、担当課長から説明させていただく。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 資料説明：函館市における単身高齢者への居住支援の現状について（令和8年5月13日付 保健福祉部調製）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ お聞きのとおりである。
- ・ ただいまの説明を踏まえ、各委員から確認したい点はあるか。

○工藤 恵美委員

- ・ 資料の４番目、函館市居住支援協議会の役割と活動状況について、会員が不動産、福祉関係、行政機関とたくさんあるが、これは会議で集まっているだけではなく、日頃からの連携体制がとれているのか。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 会議については、年に１回程度の開催となっているが、会議に至るまでの間、協議会の事務局は都市建設部で担っており、保健福祉部では副会長という立場で参加させていただいている。基本的に、不動産関係団体とは都市建設部でやりとりしており、保健福祉部は、福祉サービスへのつなぎをという形で、連携して取組を進めている。

○工藤 恵美委員

- ・ 以前に、頼まれて住居を探したことがあったが、保健福祉部に行っても都市建設部に行っても、ぱっとした返事をいただけなかったが、これからは連携し、困った人の力になってくれると思っていいか。

都市建設部ではないから、答えづらいかもしれないが、保健福祉部も相談には乗ってくれるのか。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 保健福祉部と都市建設部が協力し合い、連携して取り組んでいければと考えている。

○工藤 恵美委員

- ・ 先ほどの資料では、高齢者でも障がい者でも入居できるところがたくさんあったが、函館には不動産会社がたくさんあるにもかかわらず、協力不動産店が４件というのは寂しい。少ない理由はわかるか。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 都市建設部の所管になってしまう。

○工藤 恵美委員

- ・ 所管が都市建設部であれば結構。以上である。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 居住支援協議会のホームページに、見守りサービスの導入など様々載っているが、子育て世帯などは見ることができるが、単身高齢者がそのホームページを果たして見ることができるのか。いろいろなサービスを函館市でやっていると言っても、それがその方々に伝わるのか。その間に、包括支援センターがあり、役割を果たしているのかもしれないが、ホームページだけでなく単身高齢者の方々が不安になっていることに対し行っている取組を伝えるツールとして、何か考えていることがあればお尋ねしたい。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 高齢者はホームページを見ない方もいらっしゃるの、なかなか難しい。支援している方や地域包括支援センターに困り事を相談していただければ対応できる体制になっているので、まずは相談が基

本になってくると考えている。

○川崎 啓太委員

- ・ 現在の空き状況が9棟14戸。最初に説明があったが、地域包括支援センターへの相談件数は地域性もあり、ばらつきが見られる。資料1の生活圏域の概要に、圏域の特徴として人口や要介護認定率の高さなどのデータが並んでいるが、この辺りの地域性はどのように理解すればよいか。この空き状況が、地域性と物件がある場所でバランスが取れているのか。地域特性に合っていない物件があり、余っているのか、その辺りをどう認識すればいいのか。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 圏域において、高齢者の割合や物件の数は違いがある。伺っているところでは、桔梗地区の方では高齢化率も低いので、高齢者の相談は少ないという状況である。
- ・ 物件について、セーフティネット登録住宅は、住宅確保要配慮者の入居を拒まない住宅だが、そのほかにもここに登録されていない物件が多数あるので、地域包括支援センターなどに相談していただければ、地域のつながりや今までの不動産業者とのやりとりなどから入居に至るケースもあると伺っている。まずは各地域の包括支援センターに御相談していただき、民間住宅を希望される場合には、物件を紹介していきたいと考えている。

○川崎 啓太委員

- ・ 地域状況を踏まえ、需要のない場所の住宅だけが空いており、需要のある場所は足りていないのかという部分が知りたい。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 全体としては間に合っているが、住む地域にこだわりがあると難しい場合もあると伺っている。

○川崎 啓太委員

- ・ 住宅セーフティネット法が改正され、家賃や残置物の対応の話が出てきていると思う。今までは、残置物を大家が処理できなかったため、高齢の方は入れたくないという話があった。今日は、その辺の話が出てこなかったが、どう考えているのか。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 居住サポート住宅の制度開始を含め、去年の10月から住宅セーフティネット法が施行されているので、今後、取組が進むところではあるが、基本的には都市建設部と一緒にやっていくような形になると考えている。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 居住サポート住宅において、残置物処理など様々な部分があり、現場の保健福祉部と都市建設部の制度のマッチングが難しく、なかなか進んでいないところがある。そこを調査して、よりよい制度にしていこうという形で進めたいと思うので、よろしくお願いします。

○工藤 恵美委員

- ・ この資料は都市建設部で作った資料か。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 保健福祉部で作った資料である。
- ・ 居住支援協議会があり、都市建設部が会長、保健福祉部が副会長になっている。先ほどの工藤委員

からの質問で、実働しているのかという話があったと思うが、そこがうまくできていない懸念があり、そこを調査していく流れにしたいと思うので、そういう趣旨で保健福祉部に質疑していただければと思う。

○富山 悦子委員

- ・ 単身者の居住については結構相談があり、とにかくまず市営住宅に入りたい、毎年応募しても全然入れない実情があり、結局は民間の安いところを借りている実態が結構ある。民間もいいが、公営住宅との提携も結んでほしいと思う。
- ・ 令和6年度に907件の相談があったとのことであるが、これは解決した数か。未解決がどのくらいあるのか、わかれば教えてほしい。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 住まいに関する相談件数907件の大半は、一人の生活が大変で、どこか入れる施設を探しているという相談である。アパートに入りたいなどの正確な相談件数については把握しておらず、相談が解決したかについても把握していない。

○工藤 篤委員

- ・ 居住支援の現状について、資料4ページの3に高齢者向け住宅への入居がふさわしい方との記載があるが、高齢者向け住宅とは具体的にどういう住宅か。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 高齢者の住まいとして、民間アパートや市営住宅のほかに下宿、生活支援ハウス、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅など、いろいろな施設がある。ここで言う高齢者向け住宅は、サービス付き高齢者向け住宅が想定されている。

○工藤 篤委員

- ・ サービス付き高齢者住宅とはどういうものか。高齢者向け住宅という文言がぴんとこない。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ もう少しわかるように、詳しく説明してもらえるか。

○保健福祉部地域包括ケア推進課長（田中 秀法）

- ・ 家賃のほかに居住に関わる生活費、衣食住に係るお金を支払い、住まわせていただき、サービスの提供を受ける住宅になっている。料金も、施設によりまちまちかと思う。
- ・ 経済状況やその方々の状況に応じて、入る住宅を選んでいただく形になると思う。

○工藤 篤委員

- ・ 住宅と言ったら一戸建という感覚だが、施設に近いのか。コンテ日吉もサービス付き高齢者向け住宅であったか。（「いろいろな種類が入っている」の声あり）
- ・ わかった。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ ほかに御発言はないか。（なし）
- ・ 本日は本市における単身高齢者の居住支援の現状について確認することができた。保健福祉部においては、お忙しい中、本委員会の調査に御協力いただき感謝する。
- ・ 理事者は御退室願う。

(保健福祉部 退室)

- ・ 先の委員会において確認している、居住支援に係る国の動向や本日の保健福祉部からの説明を踏まえ、本市の課題や調査のポイントを整理する。
- ・ 本市の課題として、高齢世帯の割合が国や北海道を上回り、今後も高齢化率は上昇していくことが見込まれる中、住まいに関する相談も増加傾向にあることが挙げられる。しかしながら、単身高齢者の抱える問題は、住宅に関するものだけではなく、孤立や生活困窮など多様化、多重化しており、その状況に応じた支援が必要である。
- ・ 本市においては、令和5年2月に行政機関、住宅及び福祉関係団体を会員とする、函館市居住支援協議会を設置し、住宅確保要配慮者への入居支援などの協議を行っているが、委員会としては今後さらに、住まいと福祉の連携を強化する必要があると考え、住宅部局と福祉部局の協働体制、居住支援協議会の役割及び関係機関との連携状況の2点をポイントとして調査を進めてはどうかと考えるが、いかがか。(異議なし)
- ・ 先ほどの質疑の中でも、保健福祉部と都市建設部との連携がうまくいっていない感じがあるので、この2点について、調査を進めていきたいと思う。
- ・ 今後の進め方だが、調査の参考とするため、先進的な取組を行っている自治体について、正副で資料を調製し、それを基に改めて皆様と協議したいと考えているが、いかがか。(異議なし)
- ・ その他、今後の調査の進め方について各委員から何か御発言あるか。(なし)
- ・ それでは、整理したポイントに留意しながら、現地調査を行いたいと思う。
- ・ 準備ができ次第、7階第3委員会室前に集まっていただくようお願いする。

(現地調査実施：午後1時39分～午後3時04分)

○委員長(小林 芳幸)

- ・ 本件については、6月3日水曜日の予算特別委員会の散会後に、常任委員会を開催し、各委員の皆様から御意見などを伺いたいと思うが、よろしいか。(異議なし)
- ・ 閉会中に委員会が行った調査については、次の定例会で報告することとなるが、委員長の報告については委員長に一任願いたいと思う。これに御異議あるか。(異議なし)
- ・ 議題終結宣告

2 その他

○委員長(小林 芳幸)

- ・ 次に2のその他だが、各委員から何か御発言あるか。(なし)
- ・ 散会宣告

午後3時05分散会